

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「チャンス・チャレンジ・チェンジ」をキーワードとして、生徒全員が就労を通じた社会的自立をし、生き生きと暮らしていける人材を育成する学校をめざす。
 ☆「チャンス」＝人との出会いを大事にするとともに、本校の教育活動や生徒の良さを広く発信する。
 ☆「チャレンジ」＝自己達成感を高められるように生徒の個別の実態に応じた支援を行いつつ、未経験の課題に対して挑戦する力をつけるよう支援する。
 ☆「チェンジ」＝互いの違い・よさを認め合う仲間づくりにより自己肯定感を高め、めざすべき自分・目標を見つけて社会へ巣立つことができるよう支援する。

2 中期的目標

1 生徒本人を中心に据えた支援・教育活動の充実と、安全安心で活力あふれる学校づくり

- (1) チームによる生徒の実態把握と効果的な支援の実施により、生徒の成長につなげる。
 ※生徒向け学校教育自己診断「自分の個別の教育支援計画・個別の指導計画の目標を知っている」R7：93%（R2：84%、R3：78%、R4：73%）
- (2) 全教職員が連携して生徒の安全・安心を常にしっかり守れる体制を構築する。
- (3) 生徒が主体となって企画・運営する取組みを充実する。
- (4) 偏見や差別を許さない、人権が尊重された教育を推進する。

2 就労を通じた社会的自立をめざす「生きる力」の育成

- (1) 1人1台端末を効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業づくりをする。
 ※教職員向け「主体的・対話的で深い学びの実現をめざして授業を行っている」R7：100%（R2：96%、R3：100%、R4：90%）
- (2) 「MURANO キャリアプラン」に基づき、今後の10年に向けたカリキュラムの検討・改善をすすめる。
- (3) 生徒が社会の変化に対応できる力を育み、挑戦する意欲や自己肯定感、達成感を向上させる。
 学校経営推進費（R3「むらの『Smile & Music』プロジェクト」～地域に貢献し、地域に指示されるMURANO キャリア教育プランの具現化に向けて～）を活用して、音楽活動を通じた自己表現力や、自己肯定感の向上をめざす。
 ・シロフォン（木琴）（30.6万円）、ピラフォン（鉄琴）（23.6万円）、高床式砂栽培設備（143万円）、電気陶芸窯（31万円）等、計334.8万円
 ※生徒向けアンケート：R7「自己肯定感」、「達成感」が、それぞれ90%以上を維持（R4：自己肯定感90%、達成感96%）
- (4) 全教職員が連携して、進路学習・進路指導に取組み、生徒一人ひとりにあった進路実現をする。
- (5) 実習先・雇用先を確保してマッチング機会を充実するとともに、関係機関との連携を密にし、卒業1年後の職場定着率95%以上を維持する。
 （R2：92%、R3：94%、R4：100%）

3 魅力ある取組みの充実と情報発信による高等支援学校への理解促進

- (1) 地域等との交流・連携を深め、生徒が活躍できる機会を創出する。
- (2) 中学校・支援学校中等部での適切な進路指導を促進するために、本校の教育活動に関して積極的に情報提供をする。
- (3) 積極的な広報を行い、本校の取組みと魅力を鮮明に伝える。

4 支援教育における専門性の向上と学校の組織力向上

- (1) 初任者や経験年数の少ない教職員の育成を進めるとともに、支援教育の専門性を高める。
 ※「授業担当教諭の特別支援学校教諭免許保有率」R7：80%（R2：55%、R3：61%、R4：65%）
 ※教職員向け「初任者を含む教職経験1～2年めの者及び本校1年めの教職員に対する育成・支援が行われている」R7：75%（R2：47%、R3：63%、R4：73%）
- (2) 校務の効率化と働き方改革に取り組み、教職員の心身の健康の維持を推進する。
- (3) 開校20年（R16）に向かって、本校のめざす学校像や方向性、組織の在り方を検討する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 5年 11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><全般> 生徒については、むらの・共生とも各学年で実施日を設定して一斉に実施し、事情によりアンケート回答が困難な生徒以外はほぼ全員が回答した。教員の回答率は、回答送信が確認できる方法に改めた結果、100%となった。昨年度は、操作手順のプリント配付や、未提出者への再周知により、保護者の回答率は93%となったが、本年度の回収率は84%であった。本校生の保護者については、事情によりアンケートの回答が難しい家庭が昨年度より若干増えたことが、回答率の低下につながったと考える。</p> <p><結果と考察> 前年度より肯定率が10ポイント以上上昇した項目を「増」、下降した項目を「減」とカウントした。</p> <p>【本校生徒】 ・全体的に肯定率は高く、日常的な取組みの成果が表れていると考える。来年度以降もこの水準を維持しつつ、肯定率が下位の項目を中心に、取組みを続けたい。 ・生徒との関係性に関わる項目について、少数ではあるが否定的な回答があることを真摯に受け止め、対応していく。 ・「増」：1、「減」：0 ・課題としていた個別の教育支援計画・指導計画の目標周知については、面談時などの機会を通じて、目標を生徒と確実に共有するように工夫して周知した結果、10ポイント上昇し、83%となった。</p> <p>【本校保護者】 ・全体的に肯定率は高い。本校の教育活動へのご理解をいただけていると考える。 ・「増」：0、「減」：0</p>	<p>第1回 令和5年7月5日（水） ・行事の見直しをするということだが、こういった基準で検討されているのか。就労をめざしての行事だと思うので、人間力が上がって、そこが就労につながって生徒が成長していくと思う。 → 行事の見直しについては、「やらなければならないもの」「やった方がよいもの」「統合した方がよいもの」との仕分け等、優先順位をつけながら精査していきたい。 ・授業を見学した際に、休まずに働き続けることはしんどいことであることや、なぜそうしないといけないかを生徒に考えさせながら指導する場面があり、いいなと感じた。 ・中学校への情報提供とは、具体的にどんなことか。 → 中学卒業後の進路指導に携わる中学校の先生が本校の特徴をご存じない場合もあるので、本校のめざすところを発信していきたい。 ・地域との連携については、検討の途中にでも市に相談してもらえたらと思う。 ・昨年度の評価は精緻に作成されている。本年度も精査してバージョンアップしていく説明がわかりやすくまとめられている。 ・生徒は、いろいろなルートから相談できればよいと思う。教員も誰に相談したらよいのか悩むことがあると思うし、保護者も、例えば子どもの性についてどこへ相談したらよいのか悩まれていることもあると思う。</p> <p>第2回 令和5年10月6日（金） ・過去2年間職場実習を受け入れがなかった企業への再開拓と新規開拓が合わせて22社と聞いて大変驚いた。新規の会社はいくつあるか知りたい。 → 新規は約10社。1年間で延べ120社程度の実習先が必要なので、30～35社は開拓したいと考えている。今年度は、開校当時にお世話になっていた企業へのアプローチに力を入れている。また、障がい者雇用率が上がることもあり、企業の方からアプローチをいただくことも増えている。</p>

府立むらの高等支援学校

<p>【共生推進教室生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回答の母数が少ない（12件）ので、変動幅が大きくなっている。昨年度は10ポイント以上の低下が6項目あったが、本年度は逆に10ポイント以上の上昇が10項目と全体的に肯定率が大きく増加した。 ・「増」：10、「減」：0 ・アンケートを実施した時期と、アンケート内容に関連する指導や学習を実施した時期が近かったことなどにより、肯定率が上がったと考えられる項目がある。 <p>【共生推進教室保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回答の母数が少ない（10件）ので、変動幅が大きくなっている。回答率は71%であった（昨年は100%）。全体的な肯定率の上昇に向けて取組みを進めていく。 ・「増」：3、「減」：4 本校教員と設置校教員の連携をより深めて支援にあたったことが保護者の安心感につながったと考えられる。一方、生徒へのアンケートでは、学校生活が楽しい、という肯定的な意見が多かったが、保護者においては肯定率が低く、生徒の様子が保護者に伝わってなかったのではないかと考えられる。 <p>【本校教員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回収率は100%で、全体的に肯定率は高い。 ・「増」：0、「減」：2 きめ細かな進路指導については、生徒の教育的ニーズが変わってきており、どのような対応をしていくかについて教員間の共通認識を深めていきたい。また、個別の指導計画の作成については、年度当初の業務伝達方法に改善の余地があったと思われる。来年度から新しく担当部署を設置して体制を強化する。 ・教職経験1～2年めや本校1年めの教職員に対する育成・支援については、取組みは行っているが、実感が得られにくかったと考えられる。育成・支援体制について計画を整理して説明する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒用の自己診断の項目で「自分の個別の教育支援計画、指導計画の目標を知っている」という項目は、生徒が答えにくい項目のように思える。こういった項目についてどのように生徒の理解を促しているのかわかりたい。 <ul style="list-style-type: none"> → 三者懇談の際に、本人や保護者と相談しながら目標を設定するようにしている。教科の目標に関しては授業の中で目標を伝えている教科もある。質問項目と懇談時に伝えられている目標との結びつきをどのように強くしていくかが課題である。 ・受験者数を増やすためには、中学校の進路指導の教員に本校がどのような教育活動をしている学校なのかを知ってほしいと思う。 <ul style="list-style-type: none"> → 従来、本校を受験していた層の生徒のうち、府立高校を受験する生徒が増えていると考えられるし、無償化によって私学を受験する生徒も増えることも考えられる。高等支援5校とも現状は似ており、受験する生徒の実態が変わってきている。生徒にとって進路選択の幅が増えるのは望ましいことであるが、大阪府全体として高校教育や支援教育をどのような構成にしていけるかを考えなければならぬ時期であると思う。 ・働き方改革の取組みの成果はでてきているようだが、教員の意識は変わってきているのか。 <ul style="list-style-type: none"> → 本年度から働き方改革の取組みを徹底し、電話の応答時間をはじめ、色々とところで工夫をしている。どうすれば今までの仕事のクオリティを大きく落とさず、改革を進めていけるかが課題である。 <p>第3回 令和6年1月26日（金） ＜令和5年度学校経営計画評価（案）について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定着率が高いことは、適切なマッチングと丁寧なアフターフォローなどの成果である。 ・公開授業アンケートの結果を見ると、「むらのへの進学を薦めたい」という回答があるので、高等支援への理解が深まってほしい。 ・生徒個々の教育的ニーズの把握と支援は継続した課題である。 <p>＜令和6年度学校経営計画（案）について＞ ⇒承認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「めざす学校像」について、「チャンス・チャレンジ・チェンジ」の取組みの意味が、よく分かるようになった。 ・やりがいのある職場づくりは、教員の思いが生徒に伝わることにつながる所以で大切である。 ・開校10年以降のさらなる10年を見据えた提案となっている。 ・企業での働き方やスタイルが変化してきており、それに対応できる力が必要になってきている。 ・枚方市として、文化芸術として音楽を通じた取り組みは継続して実施していく。 ・専門学科成果発表会に出席したが、発表も素晴らしい、社会での活躍が期待できる。
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価＜※学校教育自己診断は、【生】：生徒向け、【保】：保護者向け、【教】：教職員向け＞

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 生徒本人を中心に据えた支援・教育活動の充実と安全安心で活力あふれる学校づくり	(1) 生徒の実態把握と効果的な支援の実施	(1) 職員朝礼、全体研修、事例検討会などを通じて、学年団および授業担当者が生徒の実態を共有し、目標設定や指導に活かす。 各担当者が、個別の教育支援計画・指導計画を意識し、支援方法を検討するとともに、生徒への周知方法を工夫して目標を明確に示す。	(1) 【教】 「生徒の特性や実態をふまえ、教員間で授業の内容や方法等について情報交換や検討する機会を持っている」 肯定率：92% [88%] 【生】 「先生は、自分のことをよく理解してくれている」 肯定率：92% [88%] 【保】 「学校は、子どもの障がいについて、よく理解している」 肯定率：96%以上を維持 [96%] 【生】 「自分の個別の教育支援計画・個別の指導計画の目標を知っている」 肯定率：80% [73%]	(1) 肯定的評価 93% (+5pt) 【O】 肯定的評価 90% (▼2pt) 【△】 ※1年生の肯定的評価が低かった(86%)。1年生は自己理解がまだ十分ではない場合もあるので、さまざまな角度から対応を検討していく必要がある。 肯定的評価 92% (▼4pt) 【△】 ※保護者との連携を強め、生徒理解を深めていく必要がある。 肯定的評価 83% (+10pt) 【O】 ※各授業や面談などの機会を通じて、目標を生徒と確実に共有するように工夫して周知した。
	(2) 生徒の安全・安心を守る体制の構築	(2) 併設校と連携し、合同で防犯訓練を実施する。	(2) 合同防犯訓練を企画し、実施する。	(2) 6月に合同防犯訓練を実施した。 【O】 ※来年度に防犯マニュアルを併設校と共通化する計画である。
	(3) 生徒が主体となった取組みの充実	(3) 生徒会企画の取組みにおいて、従来よりも生徒の主体性を尊重した運営とする。	(3) 【生】 「本校には達成感を味わうことができる活動がある」 肯定率：93% [91%] 【生】 「本校の行事は楽しい」 肯定率：90% [88%]	(3) 肯定的評価 94% (+3pt) 【◎】 肯定的評価 91% (+3pt) 【◎】 ※(3)の2項目は、コロナ禍以前の教育活動を再開したことにより、生徒の活動・活躍の場が広がったために評価が上昇したと考える。
	(4) 人権を尊重した教育の推進	(4) 重大ないじめ事案を発生させないよう、初期段階での対応を確実に実施する。	(4) 重大ないじめ事案が発生しない。 教職員人権研修を年2回実施する。	(4) いじめを認知した事案については、すべて初期段階で対応、解消した。重大ないじめ事案は発生しなかった。 【O】 4月に「ウェルビーイング」と8月に「同和問題」をテーマに研修を実施した。 【O】 肯定的評価 93% (±0pt) 【△】 ※高い水準で、昨年の肯定率レベルは維持できた。
			【教】 「生徒の人権を尊重して日常の教育活動を行っている」 肯定率：95% [93%]	

府立むらの高等支援学校

<p>2 就労を通じた社会的自立をめざす生きる力の育成</p>	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びの実現をめざした授業づくり</p> <p>(2) 将来に向けたカリキュラムの検討</p> <p>(3) 生徒の自己肯定感・達成感の向上</p> <p>(4) 生徒の企業就労支援</p> <p>(5) 就労率・定着率の向上</p>	<p>(1) コンテンツの共有化や研究授業・事例研究などによる情報共有を進め、ICT 機器をさらに活用した、わかりやすい授業づくりを行う。</p> <p>(2) 10年後を見すえたカリキュラムの検討をする。</p> <p>(3) 学校経営推進費事業（R3「むらの『Smile & Music』プロジェクト」）を計画通り実施する。</p> <p>(4) 生徒一人ひとりに応じたきめ細かい進路指導を行う。</p> <p>(5) マッチング機会を増やすため、実習・雇用先の開拓・確保に積極的に取り組む。</p> <p>卒業生進路先へのアフター訪問を継続的に実施して定着支援を行う。</p>	<p>(1) 【教】 「主体的・対話的で深い学びの実現をめざして授業を行っている」 肯定率：95% [90%]</p> <p>【生】 「先生は授業や行事でタブレットを使って、わかりやすい学習をしてくれている」 肯定率：95% [92%]</p> <p>(2) 年度末までに案を取りまとめる。</p> <p>(3) 生徒アンケート 「達成感」：96%以上を維持 [96%] 「自己肯定感」：92% [90%]</p> <p>(4) 【生】 「先生は、将来の進路や職業について自分にあったアドバイスをくれる」 肯定率：97%以上を維持 [97%]</p> <p>【保】 「学校は、将来の進路や職業について適切な指導を行っている」 肯定率：98%以上を維持 [98%]</p> <p>(5) 「新規実習受入企業」と、「2年以上実習受入れがなかったが、受入れを再開した企業」の合計数 30社以上 [25社]</p> <p>卒業1年後の職場定着率：95%以上を維持 [100%]</p>	<p>(1) 肯定的評価 95% (+5pt) 【O】 ※事例研究の校内研修を実施するなど、学校全体として ICT 機器を使った授業づくりを積極的に進めた。</p> <p>肯定的評価 93% (+1pt) 【△】 ※上記のように、授業での ICT 活用はできているが、コンテンツの研究をさらに進めて、わかりやすい授業づくりに取り組む。</p> <p>(2) MURANO キャリアプランについては、概念図を改訂したが、カリキュラムの取りまとめには至らなかった。 【△】 ※生徒や学校を取り巻く環境の変化を敏感に捉えながら、継続して検討する。</p> <p>(3) 「達成感」 97% (+1pt) 【◎】 「自己肯定感」93% (+3pt) ※3年めの事業を計画通りに実施した。</p> <p>(4) 肯定的評価 95% (▼2pt) 【O】 ※2年生、3年生の肯定的評価は97%であり、適切な進路指導が実施できていると考える。1年生は93%で、進路についてまだ実感がもてていない生徒がいると考える。</p> <p>肯定的評価 98% (±0pt) 【O】</p> <p>(5) 条件に該当する実習受入企業：34社 (うち新規受入企業：25社) 【◎】 ※全教員で職場開拓にあたった。コロナ禍が落ち着いたため、実習を再開していただける事業所もあった。また、障がい者雇用率が上がることもあり、企業の方からアプローチをいただくことも増えた。</p> <p>1年後職場定着率：100% (±0pt) 【◎】 ※昨年に続き、1年後定着率は100%であり、適切なマッチングとアフターフォローの成果であると考えている。</p>
<p>3 魅力ある取組みと情報発信による高等支援学校への理解促進</p>	<p>(1) 地域等との交流・連携強化と、生徒が活躍できる機会の創出</p> <p>(2) 中学校への積極的な情報提供</p> <p>(3) 本校の取組みや魅力を伝える積極的な広報</p>	<p>(1) コロナ禍により中断していた、地域と連携したさまざまな取組みを再開する。</p> <p>(2) 地域の中学校や支援学校中等部へ進路指導に有効な情報を発信する。</p> <p>(3) ホームページやブログを効果的に活用し、タイムリーに情報発信をする。</p> <p>企業や事業所の個別学校見学を積極的に受け入れる。</p> <p>開校10周年行事を企画する。</p>	<p>(1) 感染対策を講じながら、天の川カフェの一般向け営業を再開する。</p> <p>各取組みの内容を整理して見直したうえで、できるものから実施する。</p> <p>(2) 地域の中学校に公開授業週間を案内し、当該来校者が40名以上 [38名]</p> <p>中学校の支援担当者や進路指導担当者を対象とした説明会を企画する。</p> <p>(3) 年間情報発信計画に基づき、滞りなく情報を発信する。</p> <p>個別見学会の実施回数 30回以上 [25回]</p> <p>併設校と合同の実行委員会を立ち上げるとともに、校内WGを立ち上げ、企画が完了する。</p>	<p>(1) 10月より一般向け営業を再開した。「食品衛生関係優良施設」として知事表彰を受けた。一般の方にも安心してご利用いただけることのアピールとなった。 【◎】</p> <p>共生推進教室設置校の文化祭への参加を再開した。学校祭および成果発表会への企業の招待を再開した。 【O】</p> <p>(2) 10月の公開授業週間では24人の来校があった。「むらのセミナー」でも授業を見学していただいた。合計で58人の教員の来校があった。 【◎】</p> <p>「むらのセミナー」を本年度から実施した。6月に26人、10月に8人、計34人の参加があった。 【O】</p> <p>※(2)の2項目は、本校への理解を深めていただくのに必要な取組みであるので、来年度も継続実施する</p> <p>(3) 年度当初のブログ掲載計画65回に対し、発信実績は86回であった。 【◎】 ※記事作成を全教員で分担したことにより、積極的に情報発信ができた。</p> <p>計71回(81社)の学校見学を受け入れた。 【◎】 ※障がい者雇用率が上がることもあり、企業の方からアプローチをいただくことも増えた。また、福祉事業所に見学に来ていただく機会が増えた。</p> <p>合同実行委員会及び校内実行委員会を立ち上げ、企画概要を取りまとめた。 【O】 ※詳細の企画内容については、新年度より検討する。</p>

府立むらの高等支援学校

<p style="text-align: center;">4 支援教育における専門性の向上と学校の組織力向上</p>	<p>(1) 支援教育の専門性向上</p> <p>(2) 校務の効率化と働き方改革</p> <p>(3) 開校 20 年に向かって、今後の方向性の検討</p>	<p>(1) ・特別支援学校教諭免許保有率が向上するよう、研修情報などを積極的に提供し、支援する。</p> <p>(2) ・行事や業務の見直し、一斉退庁日の推進、校務のデジタル化など、校務運営の効率化に向けた取組みを実施する。</p> <p>(3) ・本校の 10 年後を見すえて、めざす学校像や組織のあり方などを検討する。</p>	<p>(1) ・【教】 「初任者を含む教職経験 1～2 年めの者及び本校 1 年めの教職員に対する育成・支援が行われている」 肯定率：75% [73%]</p> <p>・特別支援学校教諭免許保有率 保有率：70% [65%]</p> <p>(2) ・1 人あたりの時間外在校時間が前年度より 10%以上減少する。 [月平均 24.6 時間]</p> <p>・時間外在校時間が月間 80 時間以上： のべ 0 人 [のべ 10 人]</p> <p>(3) ・WG を立ち上げ、年度末までに 10 年ビジョンを取りまとめる。</p>	<p>(1) ・肯定的評価 65% (▼8pt) 【△】 ※研修内容の充実を図るとともに、OJT を強化していきたい。また授業内容や業務が円滑に引継がれるよう、工夫していく。</p> <p>・保有率：65% (±0pt) 【△】 ※現在 5 名が取得中である。うち 1 名は、本年度取得できる予定であったが、講習が延期されたため、来年度となった。</p> <p>(2) ・1 人あたりの平均時間外在校時間は 21.3 時間で、昨年度比 13.3%減となった。 【○】</p> <p>・時間外在校時間が月間 80 時間以上の者はいなかった。 【○】 ※(2) の 2 項目について、取組みの一定の効果はできていると考えるが、引き続き、業務の平準化と相互サポートの意識を高めていきたい。</p> <p>(3) ・校長による教員ヒアリングをもとに、現状の課題と、学校が取り組むべき方向性を集約し、ビジョンをとりまとめた。 【○】</p>
--	---	--	--	---